筑波學生新聞

筑波大学学生新聞会
代表　伊藤仁士
〒305−8691
茨城県筑波学園郵便局私書箱２９号
電話　0298-52-4460
振替　00360-9-31450
一部100円

# 波紋を呼ぶ　筑波大学 組替えトウモロコシ栽培

## 学内・学外に大きな動揺を招く 不透明な事実関係

**筑波大学遺伝子実験センターで一般栽培が認可されていない遺伝子組み替えトウモロコシが栽培されるという事件が起きていたことが一一月五日明らかになった。先月本紙でもお伝えした通り、同センター長の鎌田博教授の誤認により栽培され、文科省の立ち入り調査により明らかになった今回の事件。多くの環境団体、周辺の農家、学生に動揺を与えている。無許可栽培の事実関係、環境団体・学生などの反応を中心に今回の事件を追った。（伊藤）**

事件は筑波大学の遺伝子実験センター内の野外実験場で、文科省や農水省で一般栽培（届け出をしないで無許可で栽培すること）が規定により認められていない遺伝子組み替えトウモロコシ『イベント176』が栽培されていたというもの。今年六月一一日に同センター長鎌田教授の指示で学生が約三〇〇の種子を撒き、一〇月二日約一〇〇個のトウモロコシが採集された。その後、種子を提供した会社の報告を受け文科省が立ち入り調査を行い、一一月四日栽培の事実が明らかになった。二日後の六日、大学は学外の学識経験者三名を含む調査委員会を発足。事件の追及にあたっている。

今回の事件について多くの環境団体は迅速な対応を行った。つくば市の環境団体「つくば環境と人権のための市民会議」と「組み替え食品いらない！キャンペーン」などが筑波大学に対して事件の事実解明を要請。一二月四日本部棟で説明会が開催された。しかしこの会見では「奥歯に物がはさまってるみたいな感じ」と「つくば環境と人権のための市民会議」代表中島氏が話すように、出席者の満足するような結果は出なかった。

▲　遺伝子実験センターの実験場

### 環境団体・農家・学生　それぞれが抱える不満、解消できず

地域の団体だけでなく全国規模で活動する環境団体「市民バイオテクノロジー情報室」の西村氏も「大学の態度は例を見なく高圧的」と語る。また説明会にはこうした環境団体の他にも周辺の農家も参加しており「茨城県の農作物のイメージを下げないで欲しい」と訴えた。

また現在、この不祥事を問題視している学生団体はないが、個人としての関心は高まってきている。普段から遺伝子組み替え作物の問題を学んでいる生物資源四年のA君は、「大学の管理問題もあるが、国のガイドラインを知らないことがありえるだろうか」と事件に疑問を投げかけている。また組替えについて何の知識も持たない学生からも「よくわからないが、怖さはある」という声があがってきている。

### 大学が抱える問題点と事後の対応

説明会でも明らかになったが、今回の事件に対して大学が抱える問題は多い。まず、大学の遺伝子組み替え作物に対する管理問題。遺伝子組み替えの作物の実験を行う場合、大学の遺伝子組み替え安全委員会に申請をしなければならない規則になっている。しかし今回のように担当教官が安全と判断し、申請の必要性を感じなければ大学はその実験が行われたことを確認することができない。今回の事件で大学の管理問題が問われているのはこのためである。

また今回の事件は鎌田教授の誤認で起こった事件とされている。しかし「同教授は政府の審議会の委員を勤め、今回違反したその規定自体を審査する側に立っていた。自分で定めた規定を誤認していたなどありえない」と中嶋氏はいう。また同教授は遺伝子開発の推進派であったという事実もある。

他にも今回、問題の種子を提供した種子会社との関係。大学が一般農家・消費者などが敬遠する遺伝子組み替えの作物を今後も育てていく方針であるということ。今回のケースで花粉が広がる範囲などの危険性が完全に排除されているわけではないことなど、大学の不明確な説明に不満が強まっている。

### 「現場の人間は他人事」「例を見ないほど高圧的」 大学の不明瞭な説明に不満高まる

また、大学がこれらの問題を軽視しているのではないかということにも疑問も残る。先月開催された記者会見に出席した一般紙各記者は「大学のいつもの会見と変わらず、現場の人間は他人事といった感が強かった」と述べる。この記者会見で調査委員会長高木副学長が「調査委員会が一一月中に報告書を提出する」としたが現在まで（一二月五日）報告は行われていない。また当の鎌田教授は一一月六日センター長を辞任したが、一般の教授職は続けている。加えて今回の事件については公式の質問に一回も回答していない。

「事件の全容が明らかになっていない」。環境団体が述べるように、今のところ全容の解明は大学当局が進めている調査委員会の報告結果を待つしかない。

また教授の指示とはいえ種を蒔いたのは学生であったことから、学生など学内の人間にも大きな動揺を与えてしまったのは事実である。今後、管理の欠陥を露呈した大学の責任、ミスを犯した鎌田教授の責任がどのように果たされるのかに注目していきたい。

■■■■■■

「イベント176」はアメリカのシンジェンタシー社が開発した害虫駆除や除草剤に適する遺伝子組替えトウモロコシ「Btコーン」の一種。米国では商用化に成功した遺伝子組み替え作物の代表例とされてきた。今回、筑波大学で採集された「Bt11」は既に日本での一般栽培は認められている。しかし姉妹品の「イベント176」は一九九六年に輸入・飼料としての使用は認められているが、周囲の環境に影響を及ぼす危険性があるため〇二年現在では一般栽培は認められていない。

一九九九年、アメリカのコーネル大学で「Btコーン」の花粉が付着した葉を食べた蝶の四四%が死亡したとの報告もあり、英科学誌『ネイチャー』に掲載されたことで日本国内でも議論を呼んでいた。

# 学生の立場から世界へ眼を向ける

## 発信の仕方の異なる二団体　それぞれの経緯・目的・方法

**「とめよう戦争への道！一〇〇万人署名運動」主催の豊田直巳氏スライド上映＆講演会、「つくばトークライブプロジェクト」主催の映画「プロミス」上映会＆トークライブという、二つの企画が一二月上旬に開催される。この二つの企画は意図こそ異なるものの学生の立場から世界へ眼を向け活動しているという点で共通している。二団体に取材を行い、その取り組み方、意識の差を探った。（生田・中里）**

### フォトジャーナリスト 豊田直巳氏のスライド上映＆講演会

イラク国内で取材活動を行っている、フォトジャーナリストの豊田直巳氏のスライド上映＆講演会が一二月九日に行われる。これは「湾岸戦争で米軍が使用した劣化ウラン弾による放射能汚染に苦しむイラクの人々の被害や日常生活の報告をうけ、米軍によるイラク攻撃の理不尽さを訴える」もの。それを主催するのが、大学内で有事法制やイラク問題について呼びかけ、署名運動などの活動をしている「とめよう戦争への道！百万人署名運動学生連絡会（以下連絡会）」筑波大学支部の人々である。

「連絡会」は九七年の「日米ガイドライン協定」に反対するために組織された。九九年に国内でガイドライン法が成立した後も、週一回程度キャンパス内での署名運動や演説などを行っている。また、今年の通常国会で継続審議になった「有事法案」の反対運動や、緊迫するイラク情勢を多くの人に伝えるなど、精力的な活動を行っている。では、筑波大学の中でそのような活動を行うきっかけとは、どのようなものだったのだろうか。

### 「世界に平和を」→「リアル」に伝えたい 学生の無関心さに「不思議」

「例えば何の罪もないイラクの子供達が放射能で苦しみ、死んでいっていると知ったら、それをできるだけ多くの人に伝えたいという思いが湧いてくる」と語るのは、筑波大支部代表の野間利明さん。彼らの活動の出発点は「国内にあまり伝わっていない、リアルな情報を伝える」ことであり、その根底には「世の中を平和にしたい」という願いがある。

実際の活動では、関心の薄い学生により「リアルに」伝えるため、演説の際に写真を掲示したり写真展を開くなど視覚的なインパクトを高め、チラシを以前より多く配布するなどといった工夫がある。それは、他大と比べて学生がそのような活動に無関心であり、さらには、許可制など大学自体が学生の活動にそぐわないシステムを持っているという環境の中でいかに情報を提示していくか、という試行錯誤の結果であろう。

学内での署名は、現在までに五〇〇名近く集まっており、全国では四〇万名弱にも達するという。野間さんは「署名運動を通して、イラク問題などに関心を持つ人が増え、徐々に輪が広がっていけば、少しでも前進する。やらないより何かをやる。そうすることが本当に戦争をとめるような運動を作り出す第一歩だと思う」と話す。

しかしながら、彼らの活動が必ずしも強い影響力を持っているとは言い難いのが現状だ。一般の学生に話を聞いても「海外の情勢に興味はあるが連絡会の活動は興味が薄い」、また「活動自体あまり知らない」という答えが多く返ってきた。この現状に対して、当事者はどのように受け止めているのか。野間さんは「強い関心をもって活動している自分としては、不思議、としか言いようがない。これ以上周囲に伝わるやり方があれば、どんどん取り入れていくから教えて欲しい」と話す。

連絡会の活動は、イラク問題を初めとした国際情勢に直接的に関わっていない日本国民に、それらの「リアルな」情報を伝えることである。彼らが伝えたい「リアルな」情報は、筑波大生に届き、その意識を高めることができるのだろうか。（生田）

▲　講演会を告知する縦看板

### 「プロミス上映会＆トークライブ」

パレスチナとイスラエルの子供達の一日の交流を描いたドキュメンタリー映画「プロミス」の上演会及びトークライブが一二月一二日から一四日までの三日間で行われる。この企画を主催する「つくばトークライブプロジェクト」は「D&D」「トークライブ@つくば」等の活動を行ったメンバーが中心の団体である。

この企画の代表はこれまでのトークライブ活動にも中心的に参加してい栩山由美さん（国際四年）。栩山さんは「発信したいことがあるから集まった」と活動に参加した経緯を話す。

「魅力的な人、価値観に出会える場」を作りたいという意志は現在にも受け継がれている。

栩山さんはトークライブという形式を「観客とゲストが同じ立場で話し合うことで両者の距離が縮まり、様々な問題をより身近に感じることができるようになる」ものだという。その上で「社会との繋がりを作る足がかりを作ってこれた」とこれまでの活動を評価する。「その場で話し、盛り上がっただけでは仕方がないのではないか」という声もあるが、参加者から「参加することでモチベーションがあがった」と好意的な反応を聞くこともできたという。

「プロミス」が直接的に『平和』を主張し押し付ける映画ではなく「ただ見て考えられる映画」であることが重要であると栩山さんは話す。「教科書的に戦争が悪いことで、こんな悲劇が起っている、と声高に主張しても、誰もそれを真剣に受け止めて考えてくれない。普通の人が普通に生きている感覚」が大事なのだという。

「平和に興味がなくてもいい。それがおかしいとは思わない。色々な考えの人にそれぞれの形で受け取って欲しい」。何かを発信したい、色々な人に出会う場を作りたい、という思いから始まったこの活動。

### 発信したいから→押し付けではなく。 かっこよさと社会的なことはつながっている

今回の企画ではビラやポスター等にもそうした考えが現れている。彩り鮮やかで目に付くポスターは一見すると映画の内容がパレスチナ問題に関するものであるように見えない。

「敷居を低くするということではなくて、かっこよさと社会的なことは繋がっていると思う」と栩山さんは話す。「普段から社会的なことに意識を持っていない人にも伝わらなければしょうがない」時代なのだと栩山さんは考える。

また千円強の入場料を設定したのは「自分達がつくばを離れてもトークライブという企画がつくばで続いていけるようにしたかった」からだという。

「色々な人に会えたし、自分自身の考えも深められた。そして発信する力も増していると思う」という栩山さん。メンバーのこれまでの活動の集大成でもある今回のトークライブは、筑波大生にどのように受け止められるのだろうか。（中里）

▲　見た目も色鮮やかな宣伝ビラ

### 総括

これまでも、このような試みは何度も行われてきている。しかし今回、時代の影響なのかあるいはこれまでの活動の成果が出ているのか、二つの団体が同時期に活動を行うこととなった。

「世界を平和にしたい」という目的意識をもった意志から始まった「とめよう戦争への道！百万人署名運動連絡会」と、「発信したい」という個人的な動機から始まった「つくばトークライブプロジェクト」。この二つは「外の世界をよりリアルに感じて欲しい」という大きな目標において共通しているが、その出発点、表現方法において異なった姿を見せている。

どちらがより人に届き、その目的を達成できるのか、ということは問題ではないだろう。双方がそれぞれの現状認識、問題意識によって活動している。学生の立場から世界へ眼を向ける彼らの試みが、多くの筑波大生に受け入れられることが望まれる。（中里）

－今月の紙面から－

二面　つくばキャンパスレディ探訪

つくばにある大学の女子と仲良くなりたい。と始まり早連載3回目。
今回は医療技術短期大学部で五人もの女の子と……。

Contents

1　波紋を呼ぶ―筑波大学組替えトウモロコシ栽培
2　不動産関係者のそれぞれの対策　長引く不況・住宅事情の変化

### 自主休講

世界のことに思いをはせてみる。理不尽に殺されていく人々、破壊される環境、貧困で苦しむ人々、蔓延する病気、等々。文学は……うに死に、映画もまた同じ道を辿る。ゆっくりと確実に世界は死んでいこうとしている▼そんなことはいつだって思えるし悲しむこともできる。でも僕の感じるそれはリアルではないらしい。リアルではないからこそ思いをはせるだけなのだ、ということだろうか。僕だって人並みに、世界が幸せであればいい、と思い、誰も死なない方がいい、と願う。でもそのために「何か」をしてはいないのは確かだ。日々の雑事に追われ、個人的な悲しみに暮れるのに忙しい▼しかし一方で、様々な人が様々な方法で「何か」をしようとしていて、彼らは「何か」ができると信じている。それはとてもうらやましいし、素晴らしいと素直に思う▼でも、本当にそんなことできるのか、できると信じているのか、といやらしく思う僕も確かに存在する。その差。「何か」をする人々としない僕、「何か」を素晴らしいと思う僕と疑わしいと思う僕、の差。それをリアリティーのなさ、という言葉で片づけることに僕は納得できない。その差、は信じるということに関係するのではないか、と僕は考える▼僕は信じていない。理想も人間も神様も、もちろん僕自身なんて、まるで信じていない。僕ほど信じられないものはない▼信じて裏切られるのが怖いから、というガキっぽい理由ではない。信じて違う。信じないとは、つまり、信じないことすら信じない、ということで、その無限でしかし誇り高い自己矛盾を僕は愛する。理想や人間や神様や僕自身を愛するのと同じように。（愛する、と、信じる、の差は？愛する、とは、信じる、よりも肉感的で汚いのだ。熟しすぎたリンゴと食べ頃のイチゴの差）▼信じない僕は絶対に「何か」をできないだろう。これからも「何か」をする人々に憧れ、ねたみ、疑い、そして愛していくのだろう。そんな僕の精一杯の「何かもどき」がこの文章だ▼だから僕はこの文章を信じ、リアルを感じ、「何か」をしろとは言わない。ただ届けばいいと思う。「何か」をする人々に、それをしない人々に。そのためには努力を惜しむまい、と思う。その表現を、信じて、はいないかもしれないけれど。

筑波学園文庫
古書買入
学術書・専門書
筑波大教科書・参考書
SUKIYA　デニーズ　珍来
東大通り
学園平塚線
筑波学園文庫
至大学会館
つくば市天久保3-21-3
Tel/Fax(0298)56-0322

カラオケボックス パーティ＆パーティ つくば店
～カラオケならパーティ＆パーティ～
◆地域No1の安さ、お一人様1時間125円～(1時間室料無料券使用時)
◆飲み放題、謳い放題2時間1980円より(おつまみ5品付)
◆年末・年始無休にてお客様のお越しをお待ち申し上げます！
切り取り
2時間以上ご利用のお客さまに限り
1時間無料券
カラオケボックス
パーティ＆パーティ　56-3955
つくば店　12月31日まで
松見公園　追越宿舎
つくば市天久保1-7-1　TEL 0298-56-3955
URL http//www.party2.co.jp

JTB For Your Travel Life
学生時代の思い出作り
JTBの国内・海外　卒業旅行！
－学生向けに特別にセレクト、JTBの旅のラインナップ－
☆海外旅行なら「ルックJTB」
こんなにお得！フリープランもうれしい
○パリから世界遺産を訪ねて7日間　¥109,000～
○ハワイ5日間　¥58,000～
○オーストラリア　ケアンズ4日間　¥55,000～
○アメリカ　ロサンゼルス5日間　¥44,000～
☆海外格安航空券
○出張・会議・観光に最適！
○他社と比較しても安い！
☆JTBトラベルローン
旅して、あとでラクラクお支払い「旅のクレジット」
☆国内旅行は一味違う「エースJTB」
ホントに安い、宿泊の決定版！
○早春大売出し宿泊プラン　河口湖　¥6,400～
○宿泊大バーゲン　熱海　¥8,700～
－北海道～沖縄までびっくり価格－
○ポッキリ2泊3日　¥25,000！
○ポッキリ1泊2日　¥20,000！
☆スキー＆スノボード「JTBサン＆サン」
北海道スキーバス
○スキー宿泊プラン
特報　天皇杯サッカー決勝戦　元旦観戦バスツアー
つくばセンター　8:30発
旅行代金　¥118,000
前段5席
国立競技場で優勝の感動ドラマ！
お申し込み・ご相談
JTBトラベランド　つくばセンタービル店
Tel 0298-52-5582
Fax 0298-55-1449

# 不動産関係者それぞれの対策

## 長引く不況　多様化する学生の住宅ニーズ

一二月に入り宿舎入居者の募集が開始される。例年高い倍率で抽選が行われるが、不況の影響か宿舎希望者の数が増加しているという。その一方で宿舎の環境に絶えられず、年明けを待たず退去する学生も多い。学生それぞれ家庭の事情が大きく異なるため、住宅へのニーズも多様化せざるを得ない。このような状況に不動産関係者はどのように対応しているのだろうか。

不動産仲介業のアジア住販と柿本ハウジングに現在の住宅事情、またその対応について詳しく伺った。（山口）

### アジア住販 ―― 新築で設備の整った物件で学生に満足を

「以前は月六万で完全に埋まった物件も、今は月五万に下げても完全に埋まりませんね」とアジア住販担当者は話す。ここ数年、大学周辺の天久保、春日地区の物件が増え、競争が激化していることと最近の不況とが合わさって家賃相場が下がっているという。また所属学群に近い物件を求める傾向はさらに強くなっているという。大学周辺の物件が以前に増して充実していることから、より近く、安価な物件を求める学生が増えたことが原因であろう。

アジア住販では九九年からインターネット回線を標準装備した新築物件の仲介を開始している。現在では「イーストサイドミネ」などインターネットに加えオートロックやエレベーターなどを装備した物件も扱っておりいずれも学生の人気は高いという。また来年三月には春日四丁目に「グレース春日Ⅲ」が完成する。洋室十帖・インターネット回線に加えエレベーター・集中オートロック・TVモニター付インターホン、またオーデュオルーム付などフル装備である。家賃は五万四千円から六万七千円。

このように新築で装備数が多い物件に積極的に参入するアジア住販であるがそれとは正反対の戦略をとる業者もいる。

### 柿本ハウジング ―― 家賃の割に得をしたと思える物件を

長年筑波大生にアパートの仲介・賃貸を行ってきた柿本ハウジングでは築一五年など年数の経った物件を扱うことが多い。しかし不動産仲介と大家の仕事を兼務している強みを生かし、リフォームに力を入れ安くて「感じの良い」物件を提供できるよう努力しているという。「新築の部屋に住みたいが予算がそこまで出せない、という学生にも家賃の割に、得をした、と思える物件を提供したい」と柿本ハウジングは話す。限られたスペースを効率よく使い「備品のゆとり」が出るよう努力している、という。「昔の浴槽は小さく足を曲げて入らなければならなかったが、風呂釜を外に出し浴槽を大きいものに替えることで足を伸ばして入浴できるようになった」と今の時代や学生のニーズに可能な限り応えようと試行錯誤している。「今この時代に単価（月の家賃）を上げれば、誰も入らない。いかにコスト削減をし、家賃を上げないようにするかが重要」と話す。

学生に貸すということで特に配慮していることもある。卒業の時、就職などでうまくいかなかった学生は部屋の不満を訴えることが多く、トラブルになりやすいという。安価で満足のいく部屋を提供できるよう最大限配慮しているという。やはり大家の立場として学生に成功して部屋を出ていって欲しいと話す。

親の失業や収入減で宿舎に戻る学生が増加しているという。今後の学生向けの賃貸の展望について尋ねた。

「桜地区出現などを期に新たに参入してくる業者・物件が増え、現在供給過剰にある」と柿本ハウジングは話す。「これからの時代は家賃を上げずに、いかに内容を充実させられるかだ」という。

今後学生数の増加は見込めない。また学生のニーズはさらに多様化していくことが見込まれる。新築の物件が増えれば古いものやニーズにこたえられないものは時代の波に淘汰されていくだろう。

いずれにせよ、より良い物件が、より安価で提供されるようになれば学生にとってはこの上ないことである。

# 暗闇に引き裂かれたつくば ―― 停電被災地春日4丁目を歩く

闇が全てを包む夜。それは突然やって来た。私が「スネ夫って別に出っ歯じゃないんだよねぇ、なのになんであんなに口がとんがっているのだろう。生物的に異型だよねぇ。グロイよねぇ」と考えてる時突然、やってきた。

一一月二九日、夜八時過ぎ、春日四丁目と天久保三丁目を襲った惨劇「停電」。多くの筑波大生が住むこの地域、学生殆どの冷凍庫の氷を溶かしてしまうという事態を引き起こしたのは言うまでもない。春日四丁目に住む私もこの停電によって冷凍庫の氷が溶けるという大きな被害を受けた。このように数々の致命的悲劇を生み出した今回の「停電」。今のところ、原因は電気の付けすぎと言われている。

私はふと思いたった。「今、街はどうなっているのだろう？」。飛び出した。

（伊藤）

## 信号機・コンビニ・よみがえる……とどまることを知らない停電被害の猛威

八時を回りミュージックステーションを見ていた時だった。電気が切れた。私は四ヶ月電気代を滞納していたので「ええいままよ」と言った。

しかしその時、隣の異邦人が妙にうるせえので、「ええいままよ」と思い外に出てみると隣の異邦人がもう一方の隣の四〇半ばで独身の甲斐性なしと「停電した」と話をしていたのである。

「停電だわっしょい！わっしょい！学長空爆だ！わっしょい！」と祭気分でお母さんに電話した。何故かシカトされ私は…、（ゴメン！何もギャグが思い浮かばん、後で考える）。

その後、街を探索に出かけた。停電が珍しいのか小市民な筑波小学生は挙って外に出ており私と同じく祭気分を味わっていた。（まさか冷凍庫の氷が溶けているとは知らず）。

俺様はすぐさま愛車のフェラーリに飛び乗り探索を開始した。という。しかし信号機も停電しており、車はトラフィックジャム、俺様は車の中で「行くぜ！ついてこいよ！」とドリフトをかましトップギアで踏み込んでやった。という。

コンビニの様子が気になって来た。（いつも俺っちがドーナッツを買う）ミニストップはこれまた異邦人のバイトがあたふた。いつも俺っちドーナッツを買う（ミニストップ）は神様であるはずの客を追い出していた。それに比べ街のほっとステーションは停電により瀕死寸前の客達を懸命に店の駐車場にはべらした。という。

## 黒く塗られた第二の家

その後今回最も気になっていた「よみがえる」に向かった私。「よみがえる」は私にとって第二の家とも言える貴重な場所。学校から帰る際に必ず帰る場所であるため「読み帰る」が気になっていたのだ。予想通り「読み帰る」は混乱していた。立ち読みの客をとりあえず外に出し、非常灯しかつかなくなった店内はもはや帰る「読み帰る」ではなかった。私は家の冷凍庫の氷が気になってしょうがなく、探索を中断することにした。

そして帰って電気がついた。冷凍庫の氷は三〇分後戻った。

# ひとのめ 77 〜罠〜

http://www.geocities.co.jp/Hollywood-Kouen/5473

# つくばキャンパスLADY探訪 ■3■ 筑波医療技術短期大学部

モーニング娘。が大好き。だって、おんなのこちゃんがイッパイいるんだもん。モー娘。を見ていれば、なっちもごっちんも、よっすぃーも、辻ぼんだっていっぺんに見れちゃうのだ。やったね。

この連載は、あぁ、おんなのこちゃんイッパイに囲まれたら、さぞ幸せでしょうなぁ、っていうやつです。（生田）

雨降りの夕刻、ひんやりとした薄暗いロビーで僕は、通りすがる人々に変態を見るまなざしを向けられていた。医療技術短期大学部、通称「医短」に来ていた。ここやったらおんなのこちゃんいっぱいおるやろ。

一時間ほど行き交う人々に虫けらけら扱いされ、知らない大人の人から軽犯罪者のようにあしらわれ、もう帰ろうかと思っていたとき、同じく帰ろうとしていた女の子ちゃん二人に声をかけると、あっさり取材OKしてくれた。この娘らはなっちとごっちんやないやろか。そう思っていたら、だんだんとお友達が参入してきて、最終的に五人になった。「うわっ、これ、なんちゃらファイブっていうやつとちゃいますのん。それとも五人祭かいね。」

今回取材に応じてくれたのは、ユミさん、サトミさん、ナツミさん、レンさん、アヤさんの五人。五人のおんなのこちゃんと話す、というやまだかつてない事態に胃がキリキリとしてきたので下腹部をさすっていると、ファイブの中で一番元気の良いレンちゃんが「看護してあげようか」と冗談かましてきたので、あぁきっとこの娘が辻ぼんだ、辻ぼんに違いない、と思った。

やがて何も話すことがなくなった。そうや、先月と同じようにこの娘らに悩み相談をしてみようやないか。あのうすいません、僕の悩み聞いてくれはります？するとファイブ、戸惑いながらも、承知。あのう僕は人間関係とか、その苦手で、（中略）その何とか上手く人と接していく方法っていうか、ないですかねぇ。するとさすが看護婦さんの卵、「もっと人と接すればいい」「積極的にいくべきだよ」「失敗を恐れずに」など、優しく明るく答えてくれる。ええ娘らや、と感慨に浸っていると突如アヤさん、「勝手にすれば」と冷たく言い放つ。

あぁ、ぼくチン、そんなアヤさんに叱られたいわ。ひょっとしてこの娘がごっちんやあらへんか。いや待てよ、この娘、アヤっていう名前や、そうか、この娘はあやや（松浦亜弥）や！そして僕は今、あややに叱られたい！

それからというもの、どうしたらアヤさんから叱られることができるのか、どうやったらあややとめっちゃホリデエになんのか、どうやったらズバッとサマータイムになるんかいねぇ、ということばかり考えていたので、ファイブとどんな会話をしたのかあんまり憶えていません。

ただ、僕は五人の娘といっぺんにお話するのは無理や。もしかすると、一生おんなのこちゃんと普通におっはなしするのは無理とちゃうやろか。このまま死ぬまでモンモン君人生なんとちゃうやろか。帰り道、雨はやむことなく勢いを増してきている。それにしても、と僕は思う。五人でこんなザマやったらあかんわ。モー娘。やったらそれこそ今日の二倍やで。

雨降りの夜、薄暗い歩道の真中で僕は、モーニング娘。のファンやめようかな、と思った。

## モー娘。のファンやめようかな

# 応援団「桐葉」の実体

厳しい練習？　階級制度？　精神主義？

応援団、厳しい階級制度、激しい練習、精神主義。一般学生から様々な偏見を持って語られる彼らだが、実際にはどのような人々なのだろうか。筑波大学の応援団である「桐葉」に取材を行い、応援団の実体に迫った。

（中里）

筑波大学の応援団である桐葉が創立されたのは昭和六三年。硬式野球部が神宮大会で一位になった時に「そういえば応援団がないな」ということで作られた。桐葉、という現在の名称になったのはそれから五年後のこと。

練習は水、土に行われ日曜は実際に応援に行く。野球、アメフト、バレーなどの応援が主だが、「要望があれば基本的にはどこの応援でもする」という。また一一月には演舞会である「桐葉の舞」が行われ、五〇〇人近い観客が集まる。

一一月現在で部員は三六人。内訳はリーダー部七人、チアリーダー部一〇人、マーチングバンド部一二人となっている。リーダー部というのが一般に想像される学ランで応援を行う人々である。他の大学ではリーダー部が一番上の立場にあり、他の二つの地位が低いことが多いが、桐葉では同じ立場にいるとのこと。

総員三六人というのは応援団の規模としては多くはないという。全盛期は六〇人近い部員がいたという桐葉。「団員の数は減少している。特にリーダー部が少なくなっている」と一三代団長池田真一さん（生物四年）は話す。池田さん自身も「入ったのは酒ののり」。高校時代からのばりばりの応援団員のは少ないのだという。

団員減少の原因は「練習が厳しいこと。また応援という行為自体精神主義的で、合理的でないと思われているのかもしれない」と池田さんは話す。池田さん自身も応援団に入ることを親に止められたという。

実際応援団、特にリーダー部は疲れ切り、声が枯れてからが勝負であるため、日々の練習もまず疲れ切るところから入る。そのため脱落者も多いという。

## 応援団の社会は「礼にはじまり礼に終わる」

また応援団の社会は「礼に始まり礼に終わる」ため、先輩に会ったときは鞄を置いて一礼というように上下関係もしっかりしているという。

また応援団の不人気の理由の一つに「筑波大生の愛校心が薄いこと」があるという。愛校心の薄さとはどのような時に感じられるのだろう。「他大の応援などでは応援に来た学生皆が当然のように自校の校歌や応援歌を歌え、一丸となって母校を応援している。しかし筑波大生はそもそも応援自体に来る数が少ないし、校歌などもほとんど知らない」と池田さんは話す。

広く一般に受け入れられているとは言い難い応援団活動だが「応援団の団長をやってます、と話したらほぼそれだけで採用が決定したことがある」というように就職活動などでも役に立ったという。また池田さんは「運動部の人や他大の応援団、大学関係者など普通の生活をしていては出会えない多くの人と知り合えたことも大きな収穫だ」とする。

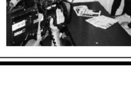
「応援を通じて筑波大学が本当に好きになれた」と話す池田さん。一般学生が敬遠し遠巻きに見る応援団の中で礼儀と愛校心を持った学生がこれからも誕生し続けていくのだろう。

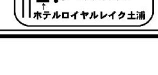
I love money.
筑波学生新聞

合宿教習で免許を取ろう！！
7月12日までのご入校なら料金一律
MT：227,000円　AT：217,000円
3人以上でお申し込みの方には…
団体割引で　お1人様5,000円をキャッシュバック！！
6月15日までにお申込の方には…
早期申込割引で　お1人様5,000円をキャッシュバック！！
つくばローカルコミュニティー
営業＝11：00〜20：00　Tel＝0298-60-4040

大盛況
ソフト館ミュージックプラザ
でっかく広がるDVDワールド
お客様第一・良心経営
石丸電気　つくば店
0298 51-1400

（つくば）を報道する。
筑波学生新聞



卒業袴で印象ひときわ
ヒロイン気分のメモリアル・スタイル
丸栄貸衣裳店

☆卒業袴レンタルの方に美容室、写真館をご紹介いたします。
☆グループでお申し込み頂ければ、衣装合わせに伺います。
☆ただいま予約割引実施中！
卒業袴一式　20%引　小物付
35,000円 → 28,000円
土浦駅東口より徒歩2分
ホテルロイヤルレイク土浦内1階
営業時間9:00〜18:00
TEL 0298(24)2444